

第2回中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議 主な発言内容（要約）

平成31年1月25日(木)10:00～
中津川市役所本庁舎4階大会議室

まとめ

- ・全体として反対意見はなく、建設的なご意見が多くありました。
- ・リニア駅周辺のまちづくりについては、市内周遊のための交通拠点として機能をよく検討してほしいというご意見が多くありました。
- ・市域全体をつなぐ観光振興については、周遊の魅力となる観光資源の活用について多くご意見がありました。

■リニア駅周辺のまちづくりについて

<委員からの主な発言>

- ・周遊観光を見据え、リニア駅での回遊につながる情報発信が必要。
- ・観光ターミナルで市内の土産物がすべて買えてしまうと市内周遊してもらえなくなるので配慮が必要。
- ・リニア駅周辺については事業費や市の財政状況を考慮して、当初から背伸びした構想ではなく、リニアのまちづくりビジョンの目標である2050年までの長期的視点で進めていただきたい。
- ・観光客にまちの魅力を伝え、滞在していただく構想を新たに考えなければいけないのではないかと。
- ・周辺には大型駐車場の整備が必要。
- ・質の良いホテルが必要。ホテルの設備として温泉も検討してほしい。
- ・中津川駅と長野県の飯田駅は近いので、双方に関連するものを考えれば、乗降客が増えるのではないかと。
- ・駅前広場、バスなどの乗り場は、動線を確保し、案内表示などをよく研究して、車も人も使いやすい機能を確保してほしい。道路新設、改良についても、バス停やタクシーの乗降をすところ、自転車専用通行帯などは、安全を確保していただきたい。
- ・観光ターミナル構想には異論はないが、周辺道路の工事は大規模な開発となるため、登下校時の児童などを含め歩行者の安全に配慮してほしい。
- ・今まで以上に不特定多数の人が来るので、環境、治安など子どもたちへの悪影響が心配だが、他者を知るチャンスでもある。来訪者と住民の交流につなげることで、知らないことを知る、教育につなげてほしい。
- ・鉄道マニアには、リニアの車両に加え、リニア駅構内も魅力がある。興味のある人がいるので、リニアに関連した写真が撮れるポイントなどを情報発信するといい。
- ・今は物を買うのがオンラインで済んでしまう。何か体感できる、物のストーリーがわかる、ここに来ないと買えないという価値を作るのが、人が来るポイントだと思う。

- ・土地利用イメージに学園施設などもあるが、学生の町、大学の誘致に力を入れてほしい。
- ・東京から中津川に移転すれば家賃が10分の1、100分の1になるといったことをアピールして本社機能、国の機関を誘致してほしい。
- ・中津川をアピールできる名前をリニア駅に付けてほしい。

■市内全域をつなぐ観光振興について

＜委員からの主な発言＞

- ・歌舞伎など力を入れている分野、明治座周辺を重点的にというところが見て取れるが、常盤座なども忘れないでほしい。常盤座へは年間5,000人のツアー見学者が来ている。
- ・大河ドラマ「いだてん」でも有名な可児徳、杉原千畝などもビジョンに入れてほしい。
- ・外国人のインバウンドについて、キャッシュレス、スマホが鍵となる。免税店、宿泊施設、自動運転なども考えるべき。また来たいと思わせるような戦略が必要と思う。
- ・DMOで地域の人を巻き込んだらどうか。市の施策は限られており、取り組みは民間となる。
- ・キャッシュレスについても、地元の金融機関が頑張って地域通貨を作るとか、民間企業でほぼ無料で利用できるカード決済サービスを提供しているところもあるので、個人商店もすぐできることがたくさんあると思う。
- ・加子母地域には歌舞伎のほかに周辺に体験ができるような観光施設がある。周辺整備も必要であり、加子母村づくり協議会と懇談したらどうか。
- ・苗木城跡はグローバルな視点で市外へ発信している。中津川市の魅力を発信する大きな要素にしたらどうか。
- ・構想については点から線が必要。道路網、交通網の整備が大きな課題。濃飛横断自動車道の整備を進めてほしい。
- ・コミュニティバス自体は観光がメインではなく、観光客の交通手段としては路線バスが最優先だと思うので、記載の仕方を「路線バス、タクシー、およびコミュニティバス」にしてほしい。
- ・若い人は、地歌舞伎にあまり関心がないと思うが、ビジュアルなどに興味がわくのではないかな。バーチャル体験などもいい。地歌舞伎は子どもでもでき、気軽に観劇できる場所を押し出すといい。それが地域の財産を打ち出すことになる。
- ・地歌舞伎は海外公演も行っていただき、構想はとてもいいと思うが、明治座も含め中津川市が最終目的地になっていない現状を踏まえ、これからは、個人旅行者をターゲットに、リニア駅降車後の二次交通を検討すべきではないか。
- ・市内に点在する観光関連のソフト事業を周遊プランとしてまとめる必要がある。神坂スマートICを活用した周遊観光を構築していくべき。
- ・恵那山の魅力を活かした発信も必要。
- ・観光地域の拠点施設の名称は、検討が必要。
- ・外国人は電車で来るので、インフォメーションセンターは駅前にあるべき。そこで半日や一日の周遊モデルコース提案した方がよい。

- ・リニアの乗客に中津川市でいかに降りてもらうかが重要。新幹線ができたとき、止まる駅のある自治体は今の中津川市と同じことを考えたのではないか。成功した自治体、失敗した自治体を研究してはどうか。
- ・芝居小屋の場所をはっきり説明できるような歌舞伎のパフレットなどがあつたらいいと思う。
- ・若い人来てもらおうという点で、中津川にしかない歴史や文化を発信するのは大切。若者向けに、地歌舞伎体験をコスプレみたいな感覚でできる。コスプレイヤーでなくてもレンタルして町並みで撮れるような仕掛けもいいのではないか。

■その他

- ・若い方、女性など将来リニアを使う人たちの意見を出せる場があるといい。
- ・10年度、20年後のまちがどのようになるかわかりづらい。IT、IoT、Maas、5Gなど、どのようなものを活用していくか。イメージできるといい。
- ・数値的根拠をとらえつつ、リニアのまちづくりビジョンに基づいて長期的に進めていってほしい。
- ・どんな施設を建て、どのようなプロセスを経てどういう集客をするのかといったことを議論したい。
- ・東美濃ふれあいセンターなどの既存施設でスポーツイベントを開催し、誘客に活用してほしい。
- ・中津川の特徴ある図書館づくりが必要。
- ・観光誘客による増加について攻める姿勢を作り、中津川駅の乗降客を増やすべき。例えば充実したサッカー場の施設を作るのはどうか。